

季刊 2009年 夏号/第23号

編集・発行/東京湾海堡ファンクラブ  
会長 小坂一夫

発行日/2009年7月21日

# 海堡

# kaihou

東京湾海堡ファンクラブニュース No.23

題字は、明治39年10月1日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。  
紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

**目次**

- 第8回総会報告
- 海堡シンポジウム  
「品川台場と東京湾海堡」 浅川 道夫
- 竹内顧問が市議会で質問
- 猿島～第一海堡、洋上見学会報告
- 富津岬の説明板文案
- シンポジウム開催のお知らせ
- 書籍紹介 小沢洋『房総古墳文化の研究』
- 文化財サポーターフォーラムにパネル出展

**第8回 総会報告**

第8回総会が2009年6月27日、富津「かん七」で開催された。会員89名のうち、総会出席者は71名（委任状提出者含む）で、定足数の過半数を超え、総会は成立し、第1号から第6号議案が決議された。定例総会の後にはシンポジウム「第三海堡の遺構保存について」をテーマに、当ファンクラブの会員で、NPO法人アクションおっぱま理事長の昌子住江氏が講演を行った。（詳細は次号で紹介予定。）

また、講演会終了後には懇親会があり、会員同士の交流を深めた。



総会後に行われた講演会の様子

**第1号議案 2008年度事業報告**

日付	行事	説明
2008年		
6月7日	◎シンポジウム9〔東京〕 浅川道夫氏「品川台場にみる西洋築城技術の影響」	昨年度開催分
6月28日	●通常総会 ◎シンポジウム10〔富津〕 高橋克氏：「文化財としての富津公園と海堡を含む地域のありかた」	2007年度会計報告
7月17日	役員が東京都議会議員大沢昇氏と面会	品川台場を含めた東京湾砲台群の保護・活用、世界遺産に向けての取り組みについてご協力をお願いした。
7月22日	会報第20号の発行	
7月26日	第2回ふつつ海堡まつり	富津市観光協会富津支部主催「第2回ふつつ海堡まつり」で海堡を説明するパネル展示を行った。
8月11日	役員が横須賀市議会議員木下憲司氏と面会	観音崎砲台を含む東京湾砲台群の保護・活用、世界遺産に向けての取り組みについてご協力をお願いした。30日のシンポジウムに参加いただき、来賓挨拶をお願いした。
8月21日	高橋悦子幹事：「東京湾海堡の歴史」講演	富津公民館 女性フォーラム
8月21日	役員が富津市市議会議員竹内洋氏と面会	海堡を中心とした東京湾砲台群の保護・活用、世界遺産に向けての取り組みについてご協力をお願いした。30日のシンポジウムに参加いただき、来賓挨拶をお願いした。

日付	行事	説明
8月30日	◎シンポジウム11〔東京〕 講演会とパネルディスカッション「お台場と東京湾海堡」	東京ビックサイトにて開催。
10月18日	◇現地見学会14〔館山〕 館山戦争遺跡	東京湾要塞
10月24日	国土交通省 関東地方整備局 東京湾口航路事務所主催「第三海堡撤去構造物の活用に関する意見交換会」に出席。	仲野副会長、高橋(悦)幹事、岸会員参加。
10月25日	役員が防衛大臣 浜田靖一氏と面会	第一海堡の不発弾調査をお願いした。 東京湾海堡を整備・活用し、東京湾の防衛砲台群として、世界遺産登録を目指し、整備・活用すること、および、第三海堡の遺構保存についてもご理解とご支援をお願いした。
10月27日	役員が国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部 計画課長 加賀谷俊和氏と面会	第一海堡と第二海堡の利用・活用のお願いと第三海堡の遺構の保存についてお願いした。
11月20日	会報第21号の発行	
12月9日	◇現地見学会15〔横須賀〕 洋上見学、第三海堡遺構	
12月16日	役員が富津市市長 佐久間清治氏と面会	第一海堡の不発弾調査をお願いした。 第三海堡の遺構を富津市に保存・展示することをお願いした。 富津岬先端に海堡の説明板を設置することをお願いした。
2009年		
1月20日	千葉県議会観光立県推進議員連盟主催 東京湾視察に説明員として同行	小坂会長、高橋(悦)幹事、海堡説明を行う。竹内市議参加。
2月15日	富津岬の説明板の説明文案を富津市へ提出	
3月29日	文化財サポーターフォーラムにパネル出展	仲野副会長、高橋(克)幹事説明員として参加。

## 第2号議案 2008年度決算報告

2008年度(2008.4.1~2009.3.31)決算報告

(単位:円)

項目	08年度予算額	08年度決算額	差違	備考
前期繰越金	227,728	227,728	0	
収入の部				
会費	250,000	202,000	-48,000	法人会員3社、個人会員86人(会員24名減少)
参加費	100,000	183,500	83,500	懇親会、食事代含む。
利息その他	—	2,218	2,218	書籍購入代行費
寄付金	—	120,000	120,000	西田顧問、小坂会長、田中副会長
計	577,728	735,446	157,718	
支出の部				
印刷費	150,000	169,990	-19,990	会報発行、シンポジウム資料・見学会資料
通信費・振込手数料	80,000	69,256	10,744	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	200,000	96,500	103,500	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
見学会・シンポジウム開催費	30,000	202,606	-172,606	東京ビックサイトでの開催、館山NPOに案内依頼、昼食代、説明会会場費含む。
文房具・備品	10,000	12,493	-2,493	送信用封筒、ハレバネなど。
保険料	3,000	3,000	0	見学会開催時に加入。
役員会開催費	20,000	14,330	5,670	
全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,630	3,000	630	協力会員の会費
懇親会費用	—	72,450	-72,450	
その他	20,000	0	20,000	
計	516,630	643,625	-126,995	
次期繰越金	61,098	91,821	-30,723	

以上のとおり、ご報告申し上げます。

会計 高橋悦子

上記の決算書を監査の結果、いずれも正確なものであることを認めます。

平成21年 6月18日

監事 遠藤 敏

【予算との差異】 予算と実績とが違ったことは下記によるものです。

- ・ 市議会、県議会、防衛大臣への働きかけのため、例年以上に印刷費(カラーコピー代)がかかった。
- ・ 講師の先生への交通費が予定より少なかった。
- ・ 8月のシンポジウムでは、公民館ではなく、東京ビックサイトで開催したため、会場費用が高くなった。館山の見学会では、昼食・NPOガイド・現地バス代がすべて一括の申込みとなっていたため、見学会費用が高くなった。(参加費でまかっている。)
- ・ 東京ビックサイト開催に当たっては、西田顧問から寄付をいただいた。
- ・ 懇親会開催に当たっては、小坂会長・田中副会長から寄付をいただいた。

## 第3号議案 2009年度事業計画

日付	行事	説明
2009年		
5月12日	役員が富津市企画行政部次長 藤平則夫氏と面会。	08年12月の市長への請願書に対する協議経過説明を受ける。
5月25日	会報第22号の発行	発行済み
6月9日	竹内洋会員が富津市市議会にて、海堡の保護・活用に関する質問を行う。	
6月20日	小坂一夫会長:「海堡よもやま話」講演	県立木更津高校同窓会富津支部

日付	行事	説明
6月27日	●通常総会 ◎シンポジウム12〔富津〕 昌子住江氏：「第三海堡の遺構保存について」	2008年度会計報告
6月29日	仲野正美副会長：自衛隊第2術科学校、学生講話にて講演	
7月	会報第23号の発行	
9月	◇現地見学会〔横須賀〕 鷹取山(追浜)	
9月	会報第24号の発行	
10月31日	◎シンポジウム11〔東京〕 講演会「戦争遺跡の活用事例」	講師：近畿大学理工学部 社会環境工学科 准教授 岡田昌彰氏 「国防遺産の活用事例」
11月	会報第25号の発行	
11月	◇現地見学会15〔富津〕 竹ヶ岡台場	
12月	会報第26号の発行	
2010年		
3月	会報第27号の発行	

■ 会報の22号と23号は、2008年度分になります。

#### 第4号議案 2009年度予算案

2009年度（2009.4.1～2010.3.31）予算案

（単位：円）

項目	09年度予算額	08年度決算額	差違	備考
収入の部				
前期繰越金	91,821	227,728	135,907	
会費	200,000	202,000	2,000	現状維持
参加費	250,000	183,500	-66,500	懇親会、食事代含む。
利息その他	—	2,218	-2,218	
寄付金	—	120,000	-120,000	
計	541,821	735,446	193,625	
支出の部				
印刷費	120,000	169,990	-49,990	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
通信費・振込手数料	80,000	69,256	10,744	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
講師謝金・交通費	100,000	96,500	3,500	会報の送付、見学会・シンポジウムの案内、役員会連絡、ホームページ管理料
見学会・シンポジウム開催費	100,000	202,606	-102,606	東京ビッグサイトでの開催、館山NPOに案内依頼、昼食代、説明会場費含む。
文房具・備品	10,000	12,493	-2,493	発送用封筒、ハレハネなど。
保険料	3,000	3,000	0	見学会開催時に加入。
役員会開催費	15,000	14,330	670	
全国近代化遺産活用連絡協議会費	3,000	3,000	0	協力会員の会費
懇親会費用	60,000	72,450	-12,450	
その他	20,000	0	20,000	
計	511,000	643,625	-132,625	
次期繰越金	30,821	91,821	-61,000	

#### 【昨年度との差異】

- ・会員の拡大に努めますが、予算上、会費収入は現状維持とした。
- ・参加費については、遠方に見学会をすることも想定し、昨年度より多い金額とした。
- ・カラーコピーは、なるべく減らす努力をすることにした。
- ・会報の発送回数が多いため、通信費は昨年より多い金額とした。

#### 第5号議案 2009年度役員選任の件

●2008年度役員の新任

●新任役員

顧問 吉本充（千葉県議）

顧問 竹内洋（富津市議）

●2009年度役員

会長 小坂一夫（富津市文化財審議委員）

副会長 仲野正美（前 横須賀市立北下浦小学校教頭）

副会長 田中富蔵（新井区長）

幹事 朝倉光夫（東亜建設工業（株））

幹事 安室真弓（東京湾学会理事）

幹事 松本庄次（前 富津公民館長）

幹事 小沢洋（富津市生涯学習課）

幹事 長崎哲士（彫刻家）

幹事 勝巖（新横商事（株））

幹事 高橋克（江戸川大学准教授）

幹事 渡辺京子（富津藩の会幹事）

幹事（事務局長） 島崎武雄（（株）地域開発研究所）

幹事（会計） 高橋悦子（（株）地域開発研究所）

顧問 西田好孝（東京湾海堡建設従事者子孫代表）

顧問 吉本充（千葉県議）

顧問 竹内洋（富津市議）

監事 蓮見隆（NPOリサイクルソリューション技術顧問）

#### 第6号議案 富津花火大会での寄付の件

2009年7月25日に開催予定の第47回東京湾口道路建設促進「富津花火大会」（富津海岸）に対し、10,000円の寄付をすることを承いたいただきたい。（理由：寄付をすると、寄付をした団体名一覧がプログラムに印刷され、宣伝になる。）

→賛成多数で可決された。

#### 【東京湾口道路建設促進「富津花火大会」の内容】

日時：2009年7月25日（土）午後7時20分～

〔荒天時は26日（日）〕

趣旨：「東京湾口道路の早期実現」に向け、地元の総意を集める。

主催：富津市、千葉県観光協会

後援：千葉県、千葉県経済協議会、房総地域東京湾口道路建設促進協議会、富津市東京湾口道路・首都圏第3空港議員連盟、富津市観光協会

# 海堡シンポジウム

## 「品川台場と東京湾海堡」

浅川 道夫

### 1. 海堡の機能

#### (1) 海堡 (かいほう)

- ・明治以降の近代軍事用語で、幕末には「海中御台場」などと称していた
- ・海中を埋め立てて造成した人工島の上に築かれた砲台
- ・湾内に進攻して来る敵艦隊を阻止防禦
  - 広い射界、長い射程、大口径の火砲
  - 品川台場：江戸市街部の直接防禦
  - 東京湾海堡：東京湾の湾口防禦

#### (2) 19世紀の軍事技術に照応した砲台

- ・品川台場：有煙薬を使用する前装滑腔砲
  - 前装施条砲の普及により旧式化
- ・東京湾海堡：有煙薬を使用する後装施条砲（計画当初）
  - 無煙薬を使用する後装施条砲（大正期）

#### (3) 施工時期(着工～竣工)

- ・品川台場：嘉永6(1853)年～安政元(1854)年
- ・東京湾海堡：
  - 第一海堡 明治14(1881)年～明治23(1890)年
  - 第二海堡 明治25(1892)年～大正3(1914)年
  - 第三海堡 明治25(1892)年～大正10(1921)年

### 2. 品川台場の設計と構造

#### (1) 台場列の設計

- ・Savart, Beginnelsen der versterkingskunst (1836—37) [サハルト「築城技術の基礎」]
- ・矢田部卿雲訳「強盛術原上編」（写本として伝存）
- ・方形堡 (Redouten) を、相互に火力で援護するための適切な間隔で配置。「間隔連堡」にもとづく防禦線 (De linien met tusschenruimte)
- ・備砲の放列を広い射界・長い射程・濃密な十字砲火という3つの条件で構成。(砲艦との砲戦や、小型舟艇の進入阻止を想定)

#### (2) 配列計画

- ・台場の位置、方形堡の間隔 — 備砲の射程距離にもとづいて決定

- ・沿岸部から台場列までの距離(約2km) — 台場の背面に据付けた12ポンドカノンの最大射程(2458.2m)に対応
- ・台場の相互間隔(約400m) — 備砲の散弾射の有効射程距離に対応
  - ※散弾射とは、ブリキ製の筒に径3cmほどの鉄弾子を填めた鉄葉弾(Blikdoos)を用いた砲撃

#### (3) 壘台の構造

- ・Engelberts, Proeve eener verhandling over de kustverdediging(1839) [エンゲルベルツ「沿岸防衛に関する実例的論文」]
- ・手塚謙訳「防海試説」（写本として伝存）
- ・火砲を据え付けるための周提(Walgang)の構造 — オランダ式の前装滑腔砲に対応
  - ①砲座(Geschutbank)：砲架に乗せた火砲を配置する平坦部
  - ②胸牆(Borstwering)：前方から飛来する弾から、守備兵を守る玉除けの傾斜土手
  - ③側牆(Traversen)：砲座内に着弾した榴弾の破裂から、守備兵を守る横堤
- ・外壁(Muur) — 石材を使用して浸食を防ぐ
  - 在来の石垣普請の技術を用いて対応
  - 上縁の「勿出(Uitsteeksel)」のつくりは洋式の石垣の技術
- ・張石 — 石垣の外周基部に石材を張り、海水による浸食を防ぐ
- ・波除杭 — 台場の外周に数線の杭列を形成して、土砂の流出を防止すると共に小艦隊の接近・接岸を阻止する(径15cm程度の杉材を打ち込む)

#### (4) 内部の施設

- ・火砲、弾薬、兵員を敵の砲撃から保護するという観点に立って配置
  - ①火薬庫(Baskruid magazijntjes)
    - 装薬・炸薬として使われる黒色火薬を収納し、土堤で囲む
  - ②玉置所(Kogel hangaar)
    - 炸薬を填充していない炸裂弾(GranaadやBommen)、中実弾(Massige kogel)、鉄葉弾(Blikdoos)を収納
  - ③玉薬置所(Asmmunitie magazijntjes)
    - 砲弾に炸薬・装薬をセットした状態のものを収納

※周提中に設けた石室内へ堅固な木造庫を設備（暴発に備えた嚴重な防護措置）

④持留土(Aarden wal)

台場内の防禦設備が損壞した場合の補修用資材  
※戦闘時には、台場内へ着弾した敵弾から兵員を保護する土堤となる

⑤一文字堤(Borstwering)

歩兵用の護胸壁で、小銃の火力によって波止場からの敵の侵入を阻止

※前装滑腔銃（ゲベール）による立射の2列火線を形成

⑥番士休息所

台場の守備にあたる士卒が生活するための施設  
※井戸やセッチンも設けられていた

### 3. 品川台場の保存

#### (1) 現状

- ・三番と六番台場の2基のみが現存  
大正15(1962)年、国指定史跡に指定
- ・三番台場 — 史跡公園として公開  
公園として整備 — 壘台上部が削平されている
- ・六番台場 — 絶対保存処置がとられ立入禁止  
事実上の放置保存で、崩壊が進行している

#### (2) 六番台場への対応措置

- ・台場内に雑木や雑草が繁茂 — 遺構の破壊を促進
- ・多量の川鶉がコロニーを形成 — フン害により、遺構の汚染が著しい
- ・早急な対策を講じる必要がある

#### (3) 軍事遺産の保存と活用

- ・単なる遺跡としてではなく、その機能や歴史的意義を見学者に知らせる必要
- ・三番台場 — 壘台や内部施設の復元、展示施設の設置
- ・六番台場 — 遺構表面の保全（雑木等の伐採と芝等の養生）レインボーブリッジ上からの見学を考慮

〔本稿は、2008年8月30日海堡シンポジウム「お台場と東京湾海堡」講演会資料より作成した。〕

## 竹内顧問が市議会で質問

2009年6月9日（火）、「平成21年6月富津市議会定例会」の一般質問において、竹内洋顧問が海堡の活用方針などにつきまして、質問いたしました。

詳細は、議会記録が公表され次第、お知らせいたします。  
質問の表題と質問内容は下記の通りです。

#### 1. 質問（表題）

「富津岬沖の島、海堡について」

#### 2. 質問内容

- (1) 第一海堡、第二海堡及び撤去した第三海堡の概要について
- (2) 第一海堡、第二海堡及び撤去した第三海堡、遺構の活用方針について

## 猿島～第一海堡、洋上見学会報告

2008年12月9日（火）、国土交通省東京湾口航路事務所にご協力いただき、横須賀の猿島、第二海堡、第一海堡の洋上見学会を実施しました。15名の参加がありました。

船舶の乗船定員が15名のため、途中で受付を終了することになってしまいました。応募くださった会員の方々、ありがとうございました。（事務局）



写真-1 海堡視察前のビデオ学習



写真-2 船に乗り視察へ



写真-3 雨のため船中からの視察



写真-8 第三海堡構造物視察②



写真-4 第二海堡①



写真-5 第二海堡②



写真-6 第二海堡③



写真-7 第三海堡構造物視察①

国土交通省東京湾口航路事務所に集合し、乗船前に海堡建設の歴史と第三海堡撤去工事を説明するビデオ(約20分)を視聴した後、船に乗り、横須賀から猿島、第二海堡、第一海堡を見て帰って来るといったコースだった。

第二海堡に向う途中で雨が降り出したが、第一海堡から引き返して来る頃には雨も上がり、船の甲板から第二海堡を視察することができた。

第二海堡に上陸することはできなかったが、第二海堡では、大がかりな補修工事が行われていた。

洋上見学後は、追浜展示場にある第三海堡の遺構を見学した。

**富津岬の説明板文案**

幹事 高橋悦子

当ファンクラブは、富津市に対し、東京湾海堡についての説明板を富津岬に設置していただくことをお願いしています。その交渉の過程で、説明板の文案(原案)を作成することになり、下記の文案を富津市へ提出いたしました。(2009年2月15日)

**【説明文(案)】**

東京湾第一海堡(かいほう)と東京湾第二海堡(かいほう)

手前に見える島が第一海堡、その先の横須賀方面にある島が第二海堡です。

海堡とは、人工の島に造られた砲台です。東京湾海堡は、幕末の江川太郎左衛門の江戸湾海防計画に端を発しています。

実際に海堡建設が具体化したのは、明治時代になってからです。陸軍軍人の西田明則が中心となり、日本陸軍省によって、富津岬と観音崎を結ぶ東京湾口に三つ建設されました。海堡が造られた目的は、品川台場や東京湾砲台群と同じで、外国の軍艦から首都を護ることでした。三つの海堡は、建設

された順番に「東京湾第一海堡」、「東京湾第二海堡」、「東京湾第三海堡」と名前が付けられました。

東京湾口部に造られた海堡は、激しい潮流だけでなく、台風の影響を何度も受けました。そのため、完成まで長い年月がかかっています。

第一海堡は9年間〔明治14年(1881)～明治23年(1890)〕、第二海堡は25年間〔明治22年(1889)～大正3年(1914)〕、第三海堡は29年間〔明治25年(1892)～大正10年(1921)〕をかけ、竣工しました。

近代日本で最初に造られた人工島であった海堡は、明治39年(1906)にアメリカから技術提供を求められたほど、注目された技術でした。

また、海堡の建設工事の従事者は、その多くが千葉県の人々でした。

第一海堡の面積は23,000㎡(千葉マリスタジアムのグラウンドの1.5倍)で、水深約5mのところには造られました。

第二海堡の面積は41,000㎡(千葉マリスタジアムのグラウンドの2.7倍)で水深約10mのところには造られました。

第三海堡の面積は26,000㎡(千葉マリスタジアムのグラウンドの1.7倍)は、水深約39mのところには造られましたが、航路の安全のため平成12(2000)年度から平成19(2007)年度にかけて、水深23mのところまで撤去工事が行われました。

海堡は、実戦では使われませんでした。それを裏付ける事実として、日露戦争中の明治37年(1904)、ウラジオストクを拠点にしたウラジオ艦隊が日本の周囲に出撃し、近海で日本の輸送船を撃沈させましたが、東京湾には入らなかったことがあげられます。

第一海堡も第二海堡も地籍は富津市です。第二海堡が千葉県の最西端になります。

富津市

### シンポジウム開催のお知らせ 「国防遺産の活用事例」

「国防遺産の活用事例」をテーマにシンポジウムを下記日程で行います。英国ソレント海峡にある「スピットバンク海堡」の現地調査を中心にご講演いただきます。

開催日：2009年10月31日(土)午後

会場：都内を予定

講師：近畿大学理工学部 社会環境工学科  
准教授 岡田昌彰 氏

テーマ：「国防遺産の活用事例」

参加費：500円(予定)

詳細は9月頃に送付いたします。皆さまふるってご参加ください。

### 書籍紹介 小沢洋『房総古墳文化の研究』

当ファンクラブの幹事・小沢洋氏の著書『房総古墳文化の研究』に関する記事が、2008年9月5日付の朝日新聞(千葉版)に掲載されました。

B5判、448頁、9,500円(税別)、六一書房(03-5213-6161)  
※購入のお申し込みは、お近くの書店をお願いします。

古墳の歴史と魅力を語る小沢さん

富津市教委・小沢さん

「房総古墳文化の研究」

方には軸足を置いて列島全域、東アジアまでも視野に入れ、各時代の古墳や集落、出土品を系統的、系統的に検討している。小沢さんは明大で考古学を学び、富津市文化財センターを経て富津市職員になった。高度経済成長のまっただ中、房総各地に押し寄せる開発の波の中で、「発掘版前線」に立つ日が続いた。小沢さんの考古学研究の現場の富津地方の小糸川、小櫃川水系には数多くの古墳がある。特に富津市の内裏塚古墳は墳丘の全長が144メートルある南関東最大の前方後円墳で、一帯の約2.4四方で計47基の古墳が確認されている。「あまり知られていないが前方後円墳は全国で千葉が最も多い。県の広さもあるが、その時代の古墳には巨大な古墳を通る勢力があった。小糸川や小櫃川が大河川でなく比較的容易に流域を開墾でき、その分人口も多かったと、集落の密集度などから小沢さんは考えている。広がりのある房総の古墳の特徴だ。「古墳の形態などを見ると、早い時期に畿内から現在の東海道筋を経て、海上ルートでまっすぐ入ってきている」と話す。古墳時代の前の弥生時代後期における東京湾沿岸地域が、人口や生産力、統治機構において古墳文化を受け入れられた状態になっていた、との論述が理解を助ける。保存が叫ばれながら、今も続く古墳の破壊。小沢さんは著書で「古墳は墓である以上に、政治・文化・社会のあらゆる要素を包括したモニュメント。未来への遺産として残しておくべき価値はきわめて大きい」と訴えている。B5判、448頁、9,500円(税別)。六一書房(03-5213-6161)刊。(高山修一)

「政治・文化・社会を包括したモニュメント」

## 「文化財サポーターフォーラム」にパネル出展

文化庁主催の「文化財サポーターフォーラム」にパネル展示をしました。当日は、仲野正美副会長と高橋克幹事が説明員として参加しました。

主催：文化庁

日時：平成 21 年 3 月 29 日（日）11：00 ～ 16：30

会場：東京文化財研究所（台東区上野公園 13-43）



説明員として参加（写真は高橋克幹事）

### 開催趣旨

文化庁では、文化財の保存と活用に対する支援活動等に、社会全体の積極的な参加を求めていくためには、全国各地の保存団体、市民団体やNPO法人等の活動を調査し、その情報を提供するとともに、それらの団体と行政及び団体等相互の連携・協力を促すことが重要と考えています。

このため、平成 19 年度から市民団体等が活動しやすい環境の整備や人々が積極的にその活動に参加する機運を醸成するために必要な方策や枠組について研究・協議を行うことを目的として、この研究協議会を開催しています。



会場となった東京文化財研究所



ポスター展示の様子（98 団体が参加）

## 東京湾海堡ファンクラブ

**所在地** 〒110-0035 東京都台東区東上野2-7-6 東上野T.Iビル（緑地開発研究所内）  
TEL：03-3831-2917 FAX：03-3831-6259

**E-mail** info@kaihoufc.in.coop.co.jp

**URL** http://kaihoufc.com

**会長** 小坂 一夫

**会員数** 133名

**年会費** 個人会員2,000円 法人会員1口10,000円

**設立年月日** 平成14（2002）年9月1日

図1 東京湾第一海堡（2000年2月撮影）  
明治14（1878）年に着工し、明治23（1890）年に竣工した。面積は23,000㎡（東京ドームのグラウンドの1.8倍）、水深5mのところに建設された

**【会の概要と目的】**  
海堡とは、人工の島に造られた砲台です（図1～2）。明治時代、軍艦時と戦艦時を絶つ東京湾口に3つ建設されました。海堡が造られた目的は、外国艦船から東京を護ることでした。  
私たちは、東京湾海堡を核にして人の輪をつくり、海堡の歴史の検証、遺跡の整備と愛護、有効な活用の促進に努めるとともに、人々の親睦と交流を拡大し、東京湾口のランドマークとしての理解を深め、東京湾の歴史と未来をつなぐことを目指しています。

**【活動内容】**  
東京湾海堡は、過去においては、大正昭和時代の首都防衛の要塞でしたが、現代を迎えてからは東京湾口のランドマークになりました。未来における東京湾海堡は、遺跡であるとともに、国土防衛と海民文化の情報集積や発信の場となるよう、東京湾海堡への理解と愛護を深めるために以下の活動を行っています。

- ① 研究会・見学会・シンポジウムの開催（図3）
- ② 会報の発行（年4回）
- ③ 東京湾海堡に関する資料・情報の収集
- ④ 地方自治体や国土交通省の関係団体への東京湾海堡・東京湾砲台群の保存・活用に対する働きかけ
- ⑤ 海堡の存在と意義をPRする活動

**【世界遺産登録を目指して】**  
近代日本最初に造られた人工島であった海堡は、明治29（1906）年に米国から技術提供を求められたほど、注目された技術でした。巨大な経費と時間を要した砲台でしたが、海堡の天徳から美観として、程が受射されたことはありませんでした。  
私たちは、このような歴史を誇る東京湾海堡を中心に、品川砲台・東京湾砲台群の歴史の検証、整備・保護、さらに、世界遺産登録を目指して取り組んでいます。

**【活動（運営）上の問題点】**  
・東京湾海堡が上陸禁止であること  
・東京湾海堡を活用する管理者が決まっていないこと  
・市民のなかに戦争に賛同する施設に対してアレルギーがあること

**【他団体との連携】**  
設立から6年が経過し、東京湾海堡の保護、活用の方針がみえてきたため、今後は、東京湾の砲台群に関する研究会や保護活動をされる団体との積極的な連携を考えています。

図2 東京湾第二海堡（2000年2月撮影）  
明治22（1889）年に着工し、25年の歳月をかけ、大正3（1914）年に竣工した。面積は41,000㎡（東京ドームのグラウンドの3.2倍）、水深10mのところに建設された

図3 シンポジウム風景（2008年8月30日 東京ビッグサイト101会議室）  
「お台場と東京湾海堡」をテーマに、講演会とパネルディスカッションを行った

「文化財サポーターフォーラム」で発表したポスター（右上）

「文化財サポーターフォーラム」のホームページ：

<http://www.kuba.co.jp/bunkazai-supporter/>

## 「海堡」 *kaihou* No.23

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第23号

東京湾海堡ファンクラブ 2009年7月21日発行